

文化高知

2004年1月 NO.117



「ひかりと影」
野村祥子

〈もくじ〉

新高知大学の行く手	相良祐輔	2
演奏旅行で	松村エリナ	3
いま、土佐の地歌舞伎は	竹本美園	4～5
『楽器の動物園』	埴原弓緒	6～7
文化ホールをめぐる夢	山下興作	8～9
中国茶の世界 烏龍茶	西岡克己	10～11
学芸員からの発信 安芸市立歴史民俗資料館では	門田由紀	12
かるぽーと11月の事業のご報告		13
風俗歳時記・風伯		14～15

(財) 高知市文化振興事業団

新高知大学の行く手

相良祐輔

すでにご承知のことではあります
が、国立大学統合の施策によって、
高知大学、高知医科大学は廃校とな
り、平成十五年十月一日から全く新
しい国立高知大学が発足いたしました。
しかしながら、これもまた国の
施策ですが、平成十六年四月一日か
らは、国立大学法人高知大学と組織
替えをしなければなりません。

このことについて、あえて誤解を
恐れずに一言で説明するとしますと、
ある限度で国の支援を期待できるが、
基本的にはそれぞれの大学で経営し、
運営していかねばならない組織に変
わる、ということでありませぬ。先行
独立法人組織のこれまでをみますと、
国の支援は、年毎に二〇程度減少し
ているようですが、もしこのとおり
のことが国立大学法人に行われると
すれば、日本に高等教育の未来はな
いといつてよいでしょう。

大変大きな計算ではありません
が、高等教育予算が二〇削減される
ということは、高知大学の規模の国立
大学が年々二つから三つなくなるこ
とですし、高知大学のみならずと年々
学部がなくなるといふことなのです。
を招きかねないということなのです。



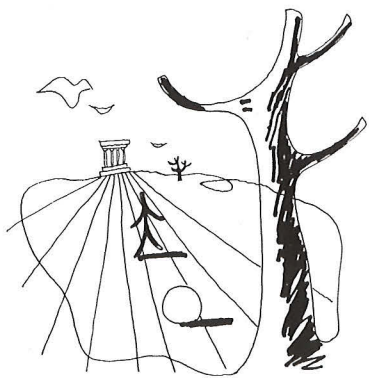
県民の皆さま方も、どうか平成十七
年度からの文教予算の成りゆきを、
厳しく注目していただきたいとお願
いしたいのです。

したがって、法人化後の高知大学
も、今までのように国に依存して安
閑としているわけにはまいりませぬ。
大学経営ということをも考えに入れ
た上で、根本からの機構改革を目指
すとともに全く新しい意識改革も行
わねばなりません。
そのなかで皆さま方と密接に関係
する事項の一つに「産官学連携」が
あります。

今までは、大学内で開発された知
的財産は大学の財産とはならず、個
人のものとして考えられ、企業との
関係では、そのほとんどが企業に移
管されておりませぬ。法人化後は、
全て大学に知的財産として管理され、
運用も大学が行うことになります。
したがって、大学の中で開発に関
わる研究活動は、高知大学の知的財
産管理機構に届けておく事前の手續
が必要となります。また、企業か
らの照会をはじめとして、共同研究
、受託研究、発明の企業化等一切、知
的財産管理機構という窓口を通して
行われますので、学外者と大学との
関係が整理一本化されます。従来か
らの学部、個人と企業との関係は成
立しないこととなります。

新しい方式の長所は、開発、研究
が途中でうやむやにならずに、経過
結果が明確になる点であります。し

たがって、今後は高知大学と企業と
の間は契約に基づく連携ということ
になるわけです。
地域連携を、多様性をもって進め
てゆかねば、高知大学の行く手は極
めて困難なものとなることは、まさ
に燎原の火を見るごとくであります。



そのためには、法的整備、機構の
組織再編、機能改善は避けて通れな
いのですが、もっとも肝要なことは、
自己努力、自己責任、自己評価に基
づく自立的な大学人の明確な意識改
革です。その事実を県民の皆さまに
よく知っていただいたとき、高知大
学は変わったと実感していただいた
とき、高知大学の行く手に希望があ
るといえると思えます。そのための
今、一歩を踏み出そうとしています。
(さがらゆうすけ／高知大学学長)

演奏旅行で

松村エリナ

深みのある香辛料の香り。騒々し
いクラクシヨンの音。道路の真ん中
には牛が横たわる。

箏の演奏のため、インドに初めて
旅をしてから約十年になる。その間、
五回訪れたが、驚くことばかりだっ
た。何処に行っても、物乞いをする
子どもたちに取り囲まれる。ひとり
の子にお金などあげようものなら大
変で、僕にも私にもと何処までもぞ
ろぞろついてくる。きりがないので
キャンディを持ち歩き、あげること
にした。お金でないことに不満げな
顔をしながらもキャンディを口に含
み、そのうちあきらめてくれる。

街では、男性同士が手をつなぎ楽
しそうに歩いている。えっ！ イン
ドってそういう国かしらと思ってい
たら、別に深い意味はなく、ただ普
通に友達らしい。道路では、牛や犬、
やぎなどがそこら辺にいる。おまけ
に車が往來している脇をゾウが歩い
ているのだからびっくりする。これ
らの牛たちは、放し飼いされていて、

散歩したり草を食べたりしながら、
夕暮れには家に帰って行くそうだ。

トイレは紙を使わず、便器脇に置
いてある大きめのコップで水を汲み、
洗い流すのだ。当然ホテルにもコッ
プが置いてあるが、シャワーに入る
のに邪魔になり、つい洗面台に置き
っぱなしにしてしまった。それに使
うとは知らない母が、歯磨きの時に
使ってしまった、かなり怒られたが、
お腹をかかえて笑った。しばらくの
間、口を聞いてもらえなかつた。

コンサート会場の客席では、男女
が左右に分かれて座っていて、演奏
会の聞き方も随分違う。初めての公
演の時「火垂る」という曲の演奏を
始めると、すぐに客席がざわざわし
だし、隣の人と頭を横に振りながら
話をしだした。不評なのかしらと、
途中カットして早めに演奏を終えた。
二年後演奏に行った時「火垂る」は
演奏しないのかと、何人かに聞かれ
たので、えっ？ と思ひ、尋ねてみ
ると、とても評判が良かったらしい。

インド人は、好きな曲の時は、隣の
人と「この曲は朝のラーガだ、すご
くいいねえ」などと、話をするのだ。
頭を横に振る習慣もあり、OKの時
も当然横振りをする。ダメ出しかと
思っていた。静かに聴かなくてはい
けないなんて習慣がないのだ。皆、
楽しく聴いている。

シタールやタブラーと即興をした
時は、参った。十分前後で終わる約
束だったので、こちらで終わろう
かと、約束の決めの「ジャーン」を
弾いた。いったん音が消えたと思っ
た途端、続きが始まった。えっ？
なんで？ と思ひながらまた演奏を
始める。もうそろそろいいだろうと、
例のジャーンを弾き、終わりのポー
ズを決めた。ところが、またまた続
く。かっこ悪い……。せつかくのポ
ーズはどうするのよ！ こんな調子
で、五十三分間続いた。終演時間な
んであまり関係ないらしい。

演奏中に停電になったり、ライト
が割れて降ってきたりした事もある。
勿論、いつ直るか分からないので、
そのまま演奏は続けた。細かい事に
気を使っていたらインドでは過ごせ
ない。大きく、ダイナミックに、の
んびりという感じである。少々潔
癖症気味の私だが、なぜかインドに
行くと、二、三日風呂に入らなくて

もいいなんて気になってくるのだか
ら不思議である。普通、大抵の人は
お腹をこわすのだが、なぜだかへっ
ちゃらで、おまけに肌の調子も良い
とくる。不思議の国、インドなのだ。
私が演奏している箏は、奈良時代
に中国から伝わったものだが、イン
ドにそれ以前に、箏のような楽器が
あったらしい。BHU大学音楽学部
長は、ほとんどのアジアの民族楽器
はインドから伝わっていると話す。
本当かどうかかわからないけれど、中
国や韓国の民族楽器と一緒に演奏す
ると、妙に馴染んでしまう。面白い
のは、それぞれの国でリズムの取り
方が微妙に違うことだ。しかし、音
の運びが、西洋音楽では横に進み、
東洋は上に進んで行く気がし、大地
のエネルギーとパワーを持ったアジ
アの音楽という感じだ。

アメリカ・ヨーロッパ・中東、た
くさんの国を公演で回ったが、イン
ド・韓国・中国はなぜだか親しみが
より感じられる。なぜかと考えた
人々の心が熱い！ 激しいのだ！
そうだ、そういったところが高知に
似ており、懐かしい気持ちにもなる
のだ。そして、高知が大好きだと確
認する旅になる。大きく、ダイナミ
ックに、のんびりと。
(まつむらえりな／箏演奏家)

いま、土佐の 地歌舞伎は

竹本美園



高知県には現在上演されている地歌舞伎が三カ所あります。

毎年上演されるのは、赤岡町の土佐絵金歌舞伎と、伊野町の八代歌舞伎。東津野村の高野歌舞伎は四年ごとの上演ですが、昨年は開催年を早めたため、三カ所全部の歌舞伎が上演される「当たり年」となりました。

私は、義太夫と下座音楽という、芝居に欠かせない二つの種類の音楽を勉強しながら、地歌舞伎上演のお手伝いをしてきましたが、高知市から無形文化財の認定を受けておられる竹本一長師が高齢のため、昨年は、すべての地歌舞伎に義太夫の弾き語りがかかわらせていただきました。

赤岡町の土佐絵金歌舞伎

七月に上演された絵金歌舞伎は、

伊野町の八代歌舞伎

十一月は、毎年上演されている、伊野町の八代歌舞伎が、あいにくの大雨の中で上演されました。高野歌舞伎と同じように、地元の氏子が参加しますが、こちらは青年団が中心となっている点が特徴です。

地元で振り付けをされていた方が



1988年11月の八代歌舞伎

この芝居は、神さまに奉納するという型をしっかりと残していますので、上演に先立ち、神社本殿で神事が行われ、神殿から舞台へ敷かれた歩み板を渡って

ました。あの濃厚な泥絵具の色は義太夫節そのもののように思えます。そのエネルギーを受け継ぐ絵金歌舞伎の皆さんは実に元気です。新しく作られた芝居集団を維持していくのは、財政的にも、労力の面からも大変なことだろうと思いますが、秋には出雲市で開かれた「全国地歌舞伎交流大会」にも参加しました。

東津野村の高野歌舞伎

十月には、東津野村の高野歌舞伎が上演されました。四月に教育委員会の方がみえられ、これからの高野歌舞伎の保存と発展のために、三味線など、上演に必要な技術も地元で身に付けていきたいので指導に来てもらえないだろうか、とのことで、及ばずながらお引き受けしました。

せっかくおけいこをするのなら、十月の上演に間に合わせたい、と思ったものの、初めて三味線や鼓を手にする十人ほどの人たちに、何をどう教えるか……。考えた末、上演外題の「賀加見山田錦絵」の、各場の下座の曲を、それぞれ三、四曲ずつ担当するよう分担し、五月から三味線と鼓のおけいこが始まりました。短い期間にもかかわらず、私が地元泊りに泊り込みで行った日は夜中まで、



高野歌舞伎を終えて（2003年10月、前列中央が筆者）

亡くなって久しく、以来ずっとビデオで前の上演の振りなぞりながらの練習をしています。そのため、振り付けの人に来てもらっている他の二カ所に比べてハンデもありますが、役者経験の長い団員やOBの人たちが寄り集まり、ああだこうだと新入りの青年たちを指導し、また、自分の子どもを舞台に出す団員もいて、練習日の夜の神社の境内はにぎやかです。時には地元の小学校の先生たちも役者に駆り出され、セリフを子どもたちに教えてもらうなど、地域ぐるみのなごやかさが八代歌舞伎を支えています。

この芝居は、神さまに奉納するという型をしっかりと残していますので、上演に先立ち、神社本殿で神事が行われ、神殿から舞台へ敷かれた歩み板を渡って

お神酒が下って三番叟が踏まれ、芝居の幕が開くという、何ともいえない雰囲気味わえます。このように、三カ所の地歌舞伎は、三様の特徴を持ちながら、それがまた、それぞれの良さとなっていて、お手伝いさせていただいて、大変楽しい経験となりました。また、この芝居をずっと残していきたい、という地元の方々の気持ちも強く感じた一年でした。

地歌舞伎のこれからのために

ただ、そのための条件が十分か、といえば残念ながら、高知の地歌舞伎は大変に厳しい所に立っているといわなければなりません。歌舞伎は、いろんな専門的な役割を総合して成り立つ芸能ですので、役者をする人や、お世話係のスタッフだけでは幕は開きません。演技指導をする振付師、化粧をする顔師、衣装の着付師、この三役を、今は一人の人が担っています。本番までの何カ月かを、毎晩のように通ったり、長期間泊り込んで指導にあたることになり、さすが、この人の他に振り付け指導のできる人は、高知にはいないのです。

義太夫の太夫、三味線、下座も、

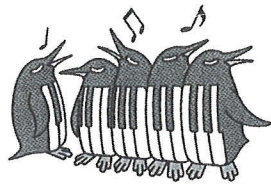
私が力不足を承知で担当させていただいているのも、他にできる人がいないためで、もし何かの時に頼める人がいない不安は、本番を終えるまで心から離れません。

すでに、私が義太夫を担当しなければならなくなつてからは、下座を受け持つてくれる人がいない中で、何とか三味線の弾ける人に頼んだり、鼓や太鼓を覚えてもらったりしています。しかし、芝居全体を知り、どこで、どんな曲を、どう弾いたり打つたりするか、といった知識や技術は、一朝一夕には身に付きませんし、特に上方の芝居の資料は少なく、資料集めの労力も大変です。それを身に付けるのには時間と経験が必要で、すし、楽器や勉強のための財政的負担も少なくありません。「好きでやっているんでしょ」と言われることもありますが、好きだからこそ、責任を持って地歌舞伎のお役に立ちたいのです。

決してオーバーな表現でなく、今年、来年の地歌舞伎が必ず上演できるという保証のない瀬戸際にあることを知っていただきたいと思いません。そして、地元の熱意をしっかりと支えられる専門スタッフの養成に力を貸していただけないでしょうか。（たけもとみその）

動物の楽器園

～子どもも、大人も、
初めて楽器にふれる
すべての人のために～



埴原 弓緒

「かるぽーと」が
テーマパークに変わります

動物園で実際に動物を見ると、かわいと思うていた動物が結構こわい顔をしていたり、動作がのっそりしていると思っていた動物が意外に機敏に動いていたりといろんな発見があります。そしてそれぞれの動物にはそれぞれに飼育係がいて、えさを与えたり、檻を掃除したり、健康状態をチェックしたりしています。楽器と演奏者の関係も、実はこれに似ています。形からは想像できない音を出したり、大きな楽器が本当はたくさんの小さな部品から出来上がっていたり、楽器は一つ一つがともユニークです。楽器(動物)がともおもしろい生き物だということをも、演奏者(飼育係)を通して知ってもらい、楽器や音楽に親しんでもらおうというのが『楽器の動物園』です。

そして、「かるぽーと」についても、もっともっと知ってもらおう、という目的もあります。コンサートや観劇、展覧会等で「かるぽーと」に来て、ホールのロビーと客席だけしか知らない、ギャラリーに行っただけ、というのが普通です。でも、ホールあるいは文化施設には、ふだ

にお客さまが見ることのない、いろいろな機能や設備があります。また、見えないところで、舞台スタッフや事務所の人、警備の人などたくさんの人々が働いています。今回は、こうした舞台裏も見てください、「かるぽーと」をまるごと体感してもらえたらと思います。

よつこ『楽器の動物園』へ

受付でパスポートとマップを手にしたら、それぞれがめざすアトラクションに向かいます。楽器(動物)と演奏者(飼育係)を観察する「楽器の動物園」のほか、打楽器を自分でつくって音を出してみる「打楽器工房」、かるぽーとの中のチェックポイントやさがすスタンプラリー「かるぽーと探検」、自由に楽器をみたりさわったり演奏したりできる「楽器の休憩室」などなど、さまざまアトラクションがあり、自分でも好きなように回ることができるテーマパークになっています。

どんなアトラクションがあるの？

●楽器の動物園

「チューバが出てくるまで何小節あるか数えてみよう」、チューバの「飼育係」の野本さんはワグナーの「ワルキューレの騎行」を流しな

これを見ると本番のコンサートがもっと楽しくなるはずですよ。

●ちよつと見せて！ 舞台裏
照明や音響のデモンストレーションを見られるだけでなく、「奈落」「せり」「綱もと」「鳥屋口」……(なに、それ?) などなど、舞台のしかけをお見せします。

●コンサート
『楽器の動物園』の集大成ともいえるべき演奏会です。観察してきた動物(楽器)たちが一堂にステージに上がって演奏するとうなるのではありません。自分のお気に入りの楽器はどこにいて、どんな役割を果たしているのでしょうか。演奏会をよく聞く方にとっては今まで以上にコンサートが身近なものに感じられるでしょうし、初めての方にも楽しいコンサートになることは間違いありません。

「ぼく、あれとあれと……見たよ」「わたしはあの楽器が好き」等々、子どもたちは、覚えてたの楽器から目が放せないかもしれせん。一つ一つの楽器を通して、演奏を深く楽しむことのできるコンサートになるでしょう。

「かるぽーと」を『楽器の動物園』

から参加者に問いかけます。野本さんが吹き始めたのは七十四小節目、それまでは出番がありません。このようにオーケストラの中では、こぞーと盛り上げる楽器もあれば、出づっぱりの楽器もあります。

今回の動物(楽器)は、フルート、クラリネット、サクソフォーン、トランペット、ホルン、ユーフォニウム、チューバ、打楽器(マリリンバ、ドラムス)、ピアノの十の檻があります。そして飼育係(演奏家)が十人。やさしそうな飼育係もいれば、気難しそうな飼育係もいます。動物たちも身近で見ると、なにやらいろんなものがたくさんついていたり、



打楽器工房 (新潟県長岡市・長岡リリックホールで)

想像よりずっと大きかったりと、意外な発見があるはずですよ。お気に入りの動物をずーっと見ていてもいいし、一日かけて全部の動物を見て回ることもできます。

●打楽器工房
空き缶や紙皿など身近な材料を使って自分で打楽器をつくりまわす。そして、出来上がった楽器を使ってリズム遊びをしてみましょう。

●かるぽーと探検
スタンプラリーシートに書いてある「かるぽーと」内のポイントを探してスタンプを集めてくるおなじみのスタンプラリー。「あー! あった、ここだよ」「エー? どこなの、わかんない」等々、手に手にシートを持ってスタンプを集めていくうちに、「かるぽーと」の中にはいろんな場所があり、たくさんの方がいることがわかってきます。

●ただ今、リハーサル中
コンサート前には必ず行う「リハーサル」。でも、「リハーサルって何?」「リハーサルってどんなことをしているの?」。今回は特別にリハーサル風景をそのままお見せします。



親子連れでにぎわうホールのロビー (同上)

にははらゆみお(助アリアン音楽) 財団・『楽器の動物園』制作

井上ひさしは戯曲『イーハトーボの劇列車』のなかで、宮沢賢治にこう言わせている。

東北の、いや日本の村さ「広場」なんて、今まであったべが。村には一本道が通って居るだけだべ。「広場」があつたら、たとえば百姓一揆はずいぶん成功したと思うす。一本道しか無かつたがら、常時、百姓ははさみ撃ちばされて……。

日本にはもともと他者が出会う場所、広場がなかった。ひと昔前までは、若衆宿や鎮守の森が共同体内部の出会いの場となっていたが、いまやそれさえも減り去ろうとしている。私たちは、効率を求め、物質的な豊かさを追いかけてきたことと引き替えに、豊かで繊細なコミュニケーションの場を切り捨ててきたのだ。

とまあ、ここまでは平田オリザの『芸術立国論』（集英社新書）からの受け売り。受け売りついでに、いま少し氏の言葉を借りるなら、だからといっていまの繁栄を捨てて過去に戻るといってわけにはいかないから、これから私たちの手で新たに広場を作る必要がある。劇場や美術館、音楽ホールといった施設は、まさにそ

し、その間のサポートをボランティアとして市民から募るといのはどうだろう。

この発想を一步進めれば、プロに一定期間高知に滞在して活動してもらおうアーティスト・イン・レジデンスが視野に入ってくる。もしそれが定着すれば、定期的なワークショップの開催やプロとの共同制作も身近なものになるかもしれない。

まちづくりは人間関係づくり

ワークショップや共同制作への市民参加というと、とかくキャストなど表舞台に立つ人間を中心という事になりがちだが、照明や音響、装置、制作など裏方を含めた参加型プログラムにすることが必要だ。というのも、そのほうがより広範囲な人たちにアクセスできるし、地域へのより重層的な知識・技術の集積が可能となるからだ。

そうした活動を積み重ねることで、やがて参加した市民を中心に人々の間に緩やかなネットワークが芽生え、それが、たとえば、芸術やホール運営への理解と支援、さらには協働を生み出すなど、地域の潜在能力を高めることにつながっていく。

のような現代の広場なのだ。言い換えるなら、「公共の場」としての劇場とは、人との出会いを約束する開かれた芸術空間でなければならぬ。私がかかるぼーとをはじめ、県内外のさまざまな劇場やホールに足を運ぶのも、そうした繊細で豊かな出会いを期待してのことだ。

では、そこではどんな出会いが私たちを待ち受けているのだろうか。もちろん、優れた作品との出会いもそのひとつだろう。かるぼーとでも、オープン以来自主事業等を通じてさまざまなプログラムが組まれてきた。こうした鑑賞機会の確保が、

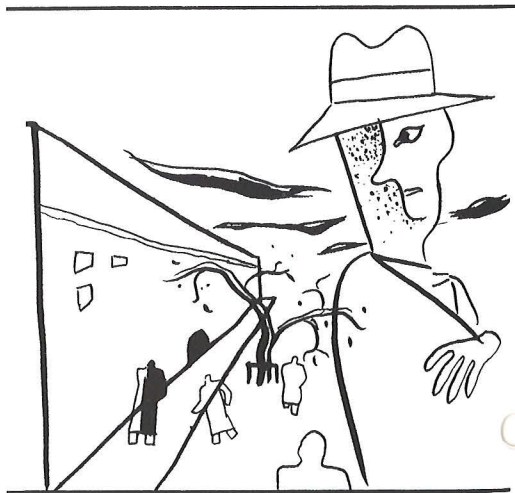
公共のホールの大切な機能であることはいままでもないし、その出会いが私たちの人生を豊かにしてくれることもまた間違いのない。

参加する JUSUNJU

しかし、ただ評価の定まった作品を与えられるままに消費するためだけに立派なホールを使うというのは、ちょっともつたたいない。ホールを利用者にとってより魅力的な出会いの場とするために、何らかの形で地域に暮らすものが参加できるよう

山下 興作

夢をめぐる文化ホールを



な仕組みを工夫することはできないだろうか。

市民参加型のプログラムと云ってまっさきに頭に浮かぶのは、公募で集まった市民のキャストで演じるオペラ、ミュージカル、演劇などであろう。高知でもこれまで何度となくそうした機会がもたれ、成果をあげてきた。だが、ここでは参加という言葉をもっと広い意味で考えてみたい。手前味噌で申し訳ないが、たとえば、私も関係している市民劇場のような鑑賞団体では、会員どうしの話し合いを元にして、自分たちの鑑賞する作品を決めていく場合が多い。そして、公演の準備や公演当日の運営なども、自分たちの手で行う。これなども立派な参加の一形態といえるだろう。

また、たとえば、ホールが自主事業で上演しようとしているある演劇が国際的にみても非常に高いレベルにあるというのなら、その内容をより深く鑑賞するための講座やワークショップを前もって行う。かるぼーとのような複合施設がその強みを発揮するのはこういうときだろう。さらには、稽古場見学やバックステージツアーを企画し、参加者を募るといふようなことも考えられる。いっそのこと稽古場としてホールを提供

ためには、ホールは周辺の盛り場などの力を借りなければならぬ。つまり、「劇場は盛り場の対話が必要とし、盛り場は劇場をともなうって都市文化を発展させる」*というわけだ。生活文化のなかにホールを組み込むには、こうしたことが案外大切なのではないだろうか。

そして、こうした連携をより有機的なものにしていく道を絶えず模索することで、それぞれが地域の中の自らのあり方を絶えず考えることになり、自己変革を生み出すまたとない機会となることも期待される。

広場としての文化ホールをめざして

勢いにまかせて書いているうちに、夢物語といわれても仕方ないところまで行ってしまった。しかし、その夢の実現に向けてどこからともなく人が集まりだしたとき、文化ホールが「現代の広場」となるための第一歩を踏み出すことになるのだ。

*二宮厚美「都市づくりの視点から劇場を考える」（清水裕之編『私たちと劇場』芸団協出版部 所収）
やましたこうさく／高知大学助教授

ピーター・ドラッカーは、その著書『ポスト資本主義社会』（ダイヤモンド社）の中で、「まちづくり」とは新しいコミュニティづくり、つまりは人間関係づくりだと述べている。だとすれば、これまで述べてきたことは、文化ホールを発信源とする芸術を通しての「まちづくり」を行うということにほかならない。

もつとも、ここまで大掛かりになつてくると、ひとつの文化ホール単独でというのには限界がある。当然、行政の支援を求めることもなるだろうし、他のホールや文化団体、大学や高校など教育機関との連携・協

力が必要になってくるだろう。連携・協力の相手はそれだけではない。再び手前味噌で恐縮だが、こでも市民劇場から例を引くのをお許し願いたい。市民劇場の会員が芝居を観るために集まってきているのは言うまでもないが、実は芝居がはねた後、仲間とお茶したり、酒を酌み交わしたりするのを楽しみにしている人が結構多い。そこでは必ずしも芝居が話題になるとは限らないが、ホールに足を運ぶことをきっかけにしたコミュニケーション＝人間関係づくりが成立していることは疑いない。しかし、そうした場を保障する

中国茶の世界

烏龍茶



西岡克己

中国には約三千種類またはそれ以上のお茶があるとわわれていますが、そのほとんどが緑茶だということを知られている人は少ないようです。日本で最も馴染みの深い中国茶といえば烏龍茶ですが、この烏龍茶というお茶は中国茶全体から見ればわずかに二割ほどしかありません。中国の茶産地は揚子江を中心に南部一帯へと広がっていて、その生産量は世界全体の約四割を占めるほどですが、烏龍茶を作っているのは広東省と福建省、あとは台湾だけなのです。

中国茶のいろいろ

日本では中国の半発酵茶を総称して烏龍茶と呼んでいますが、中国で

はこれを青茶と呼びます。正確には烏龍茶というお茶は数ある青茶の中の一品種名なのですが、どういう訳か日本では青茶といわずに烏龍茶という呼び方が定着してしまいました。不発酵のお茶を緑茶、完全発酵したお茶を紅茶と呼ぶようにお茶の発酵度や製法の違いを中国では色で表現しています。他に白茶、黄茶、黒茶と全部で六種類の色で分けられています。また、ジャスミン茶は緑茶に茉莉花の香りを吸着させたもので、このようなお茶を総称して花茶と呼んでいます。今回は烏龍茶のことを少し詳しく紹介したいと思いますので以後呼び方を中国と同じ青茶とします。

青茶が半発酵茶ということは先に

書きましたが、では半発酵とはどういう意味なのでしょう？ 茶葉というものは摘んだ瞬間から自然に酸化発酵が始まります。ですから摘んですぐに火入れをして発酵を止めたものが不発酵茶、つまり緑茶で、完全に発酵したものが紅茶になります。青茶とは途中で発酵を止めたものから、発酵の度合いによって緑茶に近いものから紅茶に近いものまで非常に幅広く出来るのです。同じ品種の青茶でも発酵度の違いで風味が全く変わってきます。ただ発酵度と

いなお茶も他にはありません。香港や台湾の茶店に行けばいろいろな種類の鉄観音が売られています。そのほとんどは本物の鉄観音ではありません。だからといってニセモノとも呼べないのです。なぜかというと本来鉄観音というのは福建省安溪県で発見された茶樹に付けられた名前一品種名なのですが、対岸の台湾では、その製茶法が伝わり台湾品種の茶で同じように作ったものを鉄観音と呼ぶようになりました。香港などでは鉄観音と付けられ売れるので

安溪鉄観音

では青茶にはどんな品種や銘柄があるのでしょうか。まずほとんどの人が最初に思い浮かべるのが鉄観音茶だと思えます。この鉄観音というお茶ほどあいま



岩肌に張り付くように生育している4本の大紅袍（武夷山）

高級茶の代名詞のようになんでもかんでも鉄観音と付けている茶店もあります。正確に言えば鉄観音というお茶は福建省安溪県で作られた鉄観音種を製茶したものです。ですから本物は産量が少なく大変高価なお茶なのです。

武夷岩茶

福建省で次に有名なお茶といえば武夷岩茶でしょう。省都福州から車で八時間ほど内陸に入ると武夷山という町があります。武夷山とい

のは山の名前ではなく、岩で出来た巨大な奇岩山が立並ぶ連山とその一帯の地名です。このお

名な岩茶といえば、大紅袍でしょう。武夷のお茶は昔から薬効があるといわれており、自由旅行が出来るようになった現在では中国各地からこのお茶を求めてやってくる人々で賑わっています。武夷山では中心部の奇岩群で作られたお茶のみ武夷岩茶と呼び、周辺一帯で作られたものを武夷茶と呼んで区別しています。

鳳凰單叢

広東省の東の端に位置する潮州市は大変歴史の古い街で、市内を流れる川には四百年以上前に架けられた大きな石橋があり、今でも車やトラックが大量に行き来しているのには驚かされます。この町の郊外に鳳凰山という山があり、広東青茶の最高級品種である、鳳凰單叢というお茶が作られています。山頂付近には南宋時代から確認されている樹齢約七百年の宋種と呼ばれる樹があり、別名を東方紅といえます。東方紅とは毛沢東のことです。

も一般の人が飲めるようなお茶ではありませんでした。近年は約二百種類の岩茶が作られていますが、最も有

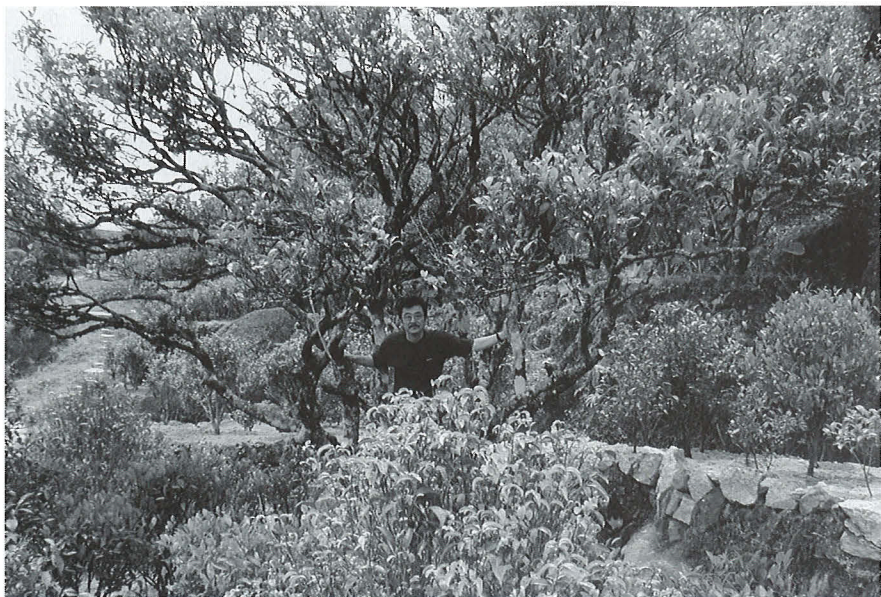
一九五八年に毛主席が初めてこの地を訪れ、この宋種を飲んだところ大変気に入ったらしく、この名が付けられたそうです。鳳凰水仙種の変異種とされるこのお茶は、茶葉の形状や香りの型などからさまざまな名

前が付けられており、六十種とも百種以上ともいわれています。インドのダージリン紅茶はこの鳳凰水仙種がルーツです。

台湾烏龍茶

大陸を代表する青茶の、安溪鉄観音、武夷岩茶、鳳凰單叢と紹介してきましたが、現在の日本で最も多く飲まれている青茶は台湾烏龍茶ではないかと思えます。台湾茶はもともと福建省から製茶法が伝わったため、生産するお茶のほとんどが青茶です。そして、台湾茶の多くは青心烏龍種という品種から作られていますので、台湾茶の多くは烏龍茶ということになります。台湾で最も有名なお茶は凍頂烏龍茶と呼ばれるもので、もともと凍頂とは産地名なのですが、現在では台湾烏龍茶のナショナル・ブランドとして台湾茶の代名詞のようになっていきます。台湾烏龍茶は発酵度が約一五%と最も低いものから、七〇%とも九〇%ともいわれるものまで実に幅広く生産されていますので、青茶に興味のある人は台湾茶から入れば分かり易いのではないかと思います。

にしおかつつみ／中国茶研究家
・パンプー茶館オーナー



潮州鳳凰山の樹齢約700年の宋種東方紅（中央は筆者）

昨年はいつになく、何十？年ぶり
 かでプロ野球を熱心に観戦しました。
 というのは、企画展「優勝おめでとう！
 安芸・阪神タイガース展」を
 企画していたからです（平成十五年
 十月十二日～十二月十四日開催）。

学芸員からの発信 安芸市立歴史民俗資料館では

門田 由紀

夏ごろ、阪神優勝の声がちらほら
 聞こえるようになったあたりから、
 同じ職場の学芸員と「やっぱりせん
 といかんよねー?!」と半分脅迫めい
 った思いからこの企画はスタートした
 のでした。安芸市では、阪神タイガ

ースが昭和四十年から春季キャン
 ンを行っており、市民あげて阪神を
 応援しています。展示には、市民愛蔵
 のサインボールやバットなど阪神グ
 ッズはもちろん、球団を受け入れた
 当初の苦労話がかがえる写真など
 も展示し、安芸市の歴史の一端が垣
 間見えたのではないのでしょうか。
 さて、当館では、このような企画
 展を年二～三回、そして特別展を一
 回開催しています。企画展は、当初
 「ミニ企画展」と称し、ミニの言葉
 のよさから、歴史にこだわらない、
 けれども安芸に関係する展示を行
 いました。その中で、異色だったのは、
 「森の哲学者たち―カモシカ写真展
 ー」でした。わんぱくこうちアニ
 マルランドの中西さんに「安芸にも
 ニホンカモシカがいるよ」というこ
 とを聞いたのが、きっかけでした。
 今回の阪神展のように時節にの
 った企画として、ごめん・なはり線が
 開通した一昨年は、「なつかし土電
 安芸線」と題し、かつて走っていた
 土電安芸線とごめん・なはり線の開
 設されるまでを紹介しました。そし
 て、昨年は開通一周年を記念して、
 ごめん・なはり線の各駅のキャラク
 ターをデザインした、やなせたかし
 さんのキャラクターの魅力を伝える
 展示を行いました。

毎年恒例になったおひなさまの展
 示も、このミニ企画展から始まりま
 した。最近では、あちこちで展示さ
 れるようになり、珍しくなくなりま
 したが、それでも二月・三月の時季
 だけに飾られるもので、特に女性に
 人気があります。毎年開催している
 と、来館者やお借りした方からいろ
 んな情報をいただくこともあり、
 また、新たなおひなさまをお借
 りするようにして、毎年違った
 展示になるよう、内容や見どこ
 ろを工夫しています。
 このように、小さい館ならで
 はのフットワークの軽さで、身
 近な地域を題材にした展示を行
 っていますが、そのほか、教育
 普及活動の一つとして、当館が
 定期的に行っている行事に「し
 ろやま、たんけん！」がありま
 す。春・秋・冬と年三回、小学
 生を対象に行っている催しで、
 「あきネイチャー」という団体
 に協力していただいて、安芸城
 をフィールドに自然観察と歴史学習
 をドッキングさせた内容です。
 館が建っている安芸城跡には、豊
 富な自然と歴史が残されています。
 これをどのように活かすか、毎回そ
 の季節にあった内容を検討します。
 これがすごい人気で、毎回五十人を



「春のしろやま、たんけん！」から、目隠しトレイル（木にふれる）

超える参加者があり、主催者側もビ
 ックリです。どこにこの魅力がある
 のか、入館者減がどの館でも悩みと
 なっている昨今、それを打破するヒ
 ントがここにあるかもしれない。
 市町村の博物館は県立の施設と違
 い、大がかりで、県外から資料を借
 りてくるようなことはなかなかでき

高知市文化プラザ かるぽーと 11月の事業のご報告

◆まんがで遊ぼう！ まんがの日
 「まんがの日」制定委員会（委員
 長・やなせたかし）によって一昨年
 から「まんがの日」となった十一月
 三日、「まんがで遊ぼう！ まんが
 の日」と題したイベントを開催しま
 した。

ちの豊かな人間性と多様な個性を育
 むことを目的に、年間を通じて日常
 生活の中でさまざまな文化にふれ、
 体験できるプログラムを提供する
 「高知市文化体験プログラム支援事
 業」を行っています。これは、文化
 庁から助成を受けて、さまざまなジ
 ャナルのワークショップを開催する
 もので、これまで、「美術体感イベ
 ント～あなたタビペンチ ほくピカ
 ソ」「創ってみよう！ ミュージカ
 ル～宇宙探検～」を実施しました。

今回はその事業の一つとして、
 「まんが手紙をかこう」「まんがカ
 レンダーをつくろう」「まんがキー
 ホルダーをつくろう」「まんが似顔絵



大盛況だった「まんがキーホルダーをつくろう」



飛び出すカードもつくったよ

教室」「オリジナルキャラクターを
 つくって、まんがを描こう」の五講
 座を開催。子どもと保護者のべ約五
 百人が参加し、高知漫画集団、高知
 漫画グループくじらの会、マンガミ
 ットの各メンバーの指導のもと、ま
 んがによるいろいろな遊びを体験し
 ました。

◆富士通コンコード・ジャズ ・フェスティバル

毎年恒例の富士通コンコード・ジ
 ヤズ・フェスティバルを、今回初め
 てかるぽーとで開催しました。

十一月三日、大ホールで、「グレ
 ート・アメリカン・ジャズ・オーケ
 ストラ」と題し、ベテラン・ドラマ
 ー、フランク・キャップ率いる「ジ
 ヤガー・ノート」が出演。デュー
 ク・エリントン・オーケストラの
 「A列車で行こう」、カウント・ペー
 シー・オーケストラの「パリの四月」
 をはじめ、「レッツ・ダンス」「ピギ
 ン・ザ・ビギン」など、有名ビッ
 グ・バンドのヒット・ソングの数々
 を演奏しました。

また、ゲスト・シンガーとして参
 加したスター・レイニーは、「オーバ
 ー・ザ・レインボウ」や「スカイラ
 ーク」など、華やかな歌声を披露。
 制服姿の高校生からお年を召した夫

婦連れまで、幅広い年齢層の観客が
 にぎやかなビッグ・バンド・サウ
 ンドを楽しまました。

◆東京バレエ団全国縦断公演 「シルヴィ・ギエムのボレロ」

十一月九日には、大ホールで、東
 京バレエ団全国縦断公演「シルヴ
 イ・ギエムのボレロ」を開催。
 百年に一人のスーパー・バレリー
 ナといわれるシルヴィ・ギエムと東
 京バレエ団との全国ツアーを、初め
 て高知に招聘した今回の公演。前売
 券が発売から二日で売り切れる人気
 で、当日も開場とともにホールは熱
 気に包まれました。

今回の作品は、現代バレエの巨匠
 モーリス・ベジャールの代表作ばか
 り。二十世紀バレエの最高傑作とも
 いわれる「春の祭典」、「火の鳥」、
 ギエムの洗練された美しさが際立つ
 小品「ルナ」、そして、ギエムと東
 京バレエ団による「ボレロ」で会場
 の熱気は頂点に。観客の拍手は鳴り
 止まず、カーテンコールが何度も繰
 り返されました。
 東京バレエ団の群舞の迫力と、ギ
 エムの圧倒的な存在感……出演者と
 観客が濃密な時間を共有し、現代バ
 レエの美しさと力強さを堪能した公
 演でした。



散歩の途中で

高知市若松町、青柳橋のたもとに建つ「田内千鶴子記念碑」。若松町に生まれ、7歳で両親とともに日本統治下の韓国木浦(モッポ)市へ渡った田内さんは、孤児施設「木浦共生園」を創設した韓国人牧師・尹致浩と結婚。動乱の時代の中で苦勞を重ねながら戦争孤児を育て、亡くなって久しい今も『韓国孤児の母』と慕われています。田内さんの縁で、木浦と高知との交流も幅広い分野で進んでいます。さて、2月にかかるぼ一とで開催するミュージカル「つばめ」。朝鮮出兵で日本に連れてこられた女性が、二つの国と二つの愛に翻弄される物語で、江戸時代、日本に派遣された文化使節団(朝鮮通信使)がモチーフになっています。日韓の伝統芸能を取り入れたミュージカル鑑賞を通して、文化理解を深めてみませんか。

風俗

迷える国、日本

日本を名指して脅されたから、といて、派遣すると決めたのに、この期に及んで尻込みするのは見苦しい。みっともないと感じる羞恥心はどこへいったのか。日本人が死ぬことは当然予想されたことではなかったのか。こんなことで迷うのは、却ってテロをのさばらせてしまっことになりは

伊拉克への自衛隊の派遣を頑として譲らない現政権は、東京へテロ攻撃するという脅しや、先日の日本人外交官の殺害で、とたんに行くべきか行かざるべきかのジレンマに陥ってしまった。しかし、ここでは迷うべきではないと思う。日本人が殺されたからとか、危ないからとか、迷うのであれば、アメリカに追随するの、しないのか、たとえ追従しても自衛隊は派遣するの、しないのかを、もっと早い時期に迷うべきではなかったか。伊拉克はまだ戦闘状態にあると思うのだが、安全なところを見つけて自衛隊を派遣するというのでは、逆に世界中の笑い者になるのではないか。明確な姿勢、方針を貫けないから、北朝鮮にも「日本抜きで」などと、失礼なことを平気で言われてしまっのではないか。(赤蜻蛉改め迷える小夜時雨)

第14回 高知出版学術賞 推薦募集

「高知出版学術賞」は、当該年における最も優れた学術出版を顕彰することによって、学術研究の振興を図ることを目的とした賞です。該当図書について、皆様のご推薦をお待ちします。

【対象】

次の事項をみたすもので、高知出版学術賞審査委員会に推薦されたもの。
①高知県内に在住する者の学術的著述、または他県在住者で高知県に関する事項をテーマにした学術的著述。
②2003年中(奥付の日付による)に発行された単行本。

【推薦】

自薦・他薦を問いません。所定の推薦書に必要事項を記入し、該当図書2部を添えて審査委員会まで提出してください(図書は返却しません)。なお、推薦書は請求いただければお送りします。

【締切】

平成16年1月31日(出)

【表彰】

3点以内とし、それぞれの著者または編者に賞状と賞金10万円を贈ります。

【推薦・お問い合わせ】

(財)高知市文化振興事業団内
高知出版学術賞審査委員会
TEL 088-883-5071

今号の表紙

「ひかりと影」 野村祥子
私はいつもひかりにつつまれていると感じている。ふとふりがえってみたら影がある。影は私なのだ。ひかりは気づかせてくれる。風にゆれる木漏れ日。建物のあいだから交差するひかり。影がひかりの神々とよんでいる。影がひかりの神々を瞬間みせてくれた。だからいそいでその姿をかけた。(のむらさちこ)



高知を撮る 五色石を拾う (昭和45年 宇佐五石の浜) 山崎章男

第19回写真コンテスト入賞作品

五色石を拾っている。カメラを向けたらはすかしいよと云ったことをおぼえている。寒い日であった。

カタカナ語



風俗歳時記

これに対して、国語研究所は「一分かりにくいカタカナ語の言い換えを望む声も多く、使い手が立場や場面に応じて選べるよう複数の選択肢を用意することが私たちの目的」と応じている。言い換えや解説を望む声としては、「カタカナ語の氾濫は目に余る」、「カ

だが、これらの案に対する批判も多い。たとえば、「メセナ」文化支援」に対して、メセナ協議会にかかわる文化人や財界人が、猛然とみついて、カタカナ語擁護論を展開している。

国立国語研究所・「外来語」委員会が、数次にわたって、「外来語言い換え案」を公表してきた。官庁やマスコミが外来語を安易に使用しているというので、約一万三千人を対象にした調査を基に、カタカナ語の理解率や、定着度も付記している。

片仮名は、万葉仮名として用いられた漢字の一部を取って作り出された音節文字。「かた」は、漢字の一部分を用いるところから「不完全」の意。平安時代に、漢文を訓読するための訓点(が)用いられるようになってから、その記入用として発達した。

現在のカタカナ語は、外国語をそのままカタカナ読みした言葉、縮約語(コンビニエンス・ストア)、コンピ、新たにわが国で作られた造語(バックミラー、ホームドクター)などの和製英語)など、さまざまの形をとっている。(朴)

第20回写真コンテスト 高知を撮る

作品募集

このコンテストは、過去から現在にいたるまでの高知県内の出来事や風景、人々の暮らしなどを写真で記録し、高知の様々な表情を伝えるとともに、未来の高知のあるべき姿を考えていこうというものです。

□テーマ

「記録写真部門」

※記録性を持った高知県に関する写真
(撮影時期を問いません)

「I LOVE 高知部門」

※撮影者の好きな高知の風景・風俗等を表現した写真
(1年以内に撮影された作品に限ります)

□応募要項

- 1) 応募はどなたでも、一人何点でも応募できます。
- 2) 出品料は無料。(作品返却の際、郵送希望の場合は実費をいただきます。)
- 3) サイズはカラー・モノクロともに254mm×365mm(ワイド四つ切サイズ)以上とします。「記録写真部門」は発泡スチロールパネル貼り(発泡スチロールパネル以外は不可)とします。「I LOVE 高知部門」はパネル貼り不要ですが、展示する際に四隅をピンで留めますので、それに支障がある場合は発泡スチロールパネル貼りをしてください。
- 4) 組み写真は3枚までとします。組み写真の場合は、必ず順番と組み写真であることを明記してください。
- 5) 規定の応募票に必要事項を記入し、作品の裏面に貼付して下さい。
- 6) 未発表の作品に限ります。ただし、個人的な展覧会などでの発表は除きます。
- 7) 特選及び準特選の著作権は主催者に帰属し(著作権法27、28条を含む)原版を提出していただきます。

□賞

「記録写真部門」

※特選 2点(賞状と賞金3万円、副賞)
※準特選 10点(賞状と賞金1万円、副賞)

「I LOVE 高知部門」

※特選 1点(賞状と賞金3万円、副賞)
※準特選 5点(賞状と賞金1万円、副賞)

入選は両部門合わせて70点以内

□応募先

※高知県カメラ商組合加盟店または、フジカラープリント取扱店
※(財)高知市文化振興事業団 企画事業課
〒780-8529 高知市九反田2-1 Tel 088-883-5071

□主催 (財)高知市文化振興事業団

□協賛 富士写真フイルム株式会社

□後援 株式会社ラボネットワーク・高知県カメラ商組合

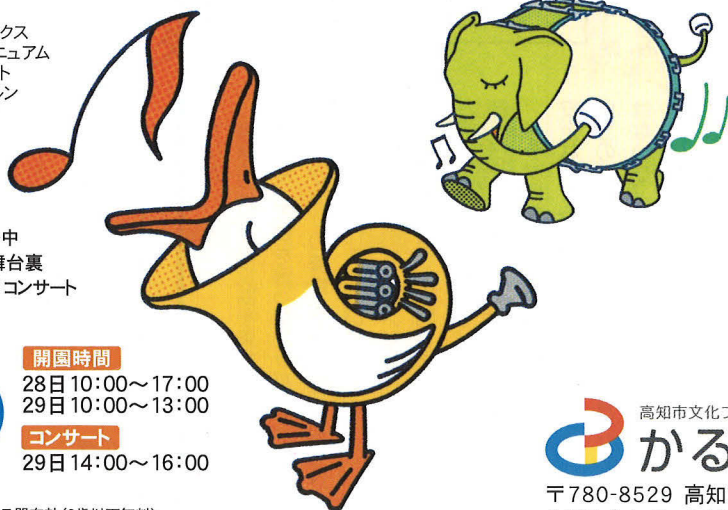
応募締切 1月31日(土)

発表3月上旬、出品者に通知

楽器の動物園

楽器の動物園は、かるぽーとをひとつのテーマパークに見立てて動物(楽器)のおもしろさや舞台の楽しさを、たくさんのアトラクションを通じてみんなに知ってもらおうというイベントです。パスポートとマップを手にしたら、ふだんは見られない音楽の不思議な世界に飛び込もう!

- ア** 楽器の動物園
トランペット・サクソフ
ピアノ・ユーフォニアム
- ト** チューバ・フルート
- ラ** クラリネット・ホルン
パーカッション
- ク** 楽器の休憩室
打楽器工房
- シ** かるぽーと探検
ファンファーレ
- ヨ** ただ今、リハーサル中
- ン** ちょっと見せて! 舞台裏
マジカル・サウンズ コンサート



2/28-29
(土) (日)

開園時間
28日 10:00~17:00
29日 10:00~13:00

コンサート
29日 14:00~16:00

入園料 ¥500 ※2日間有効(3歳以下無料)

かるぽーとが、とつても楽しい
楽器のテーマパークに大変身!

高知市文化プラザ
かるぽーと
〒780-8529 高知市九反田2番1号
お問い合わせ 088-883-5071